

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成28年度病害虫防除情報第7号

施設野菜の病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

施設の病害発生が多くなる時期です。適切なほ場管理と初期防除に努めましょう。

1 作物名 施設野菜（冬春トマト、冬春ピーマン）

2 病害虫名 トマトすすかび病
ピーマン黒枯病、斑点病

3 発生状況（経過）

1) 冬春トマト（ミニトマトを含む）

11月中旬の巡回調査の結果は以下の通りであった。

(1) すすかび病

発生面積率：40.0%（前年10.0%、前々年0.0%）

発病葉率：6.9%（前年0.6%、前々年0.0%）

過去10年で最も多い

過去10年で最も多い

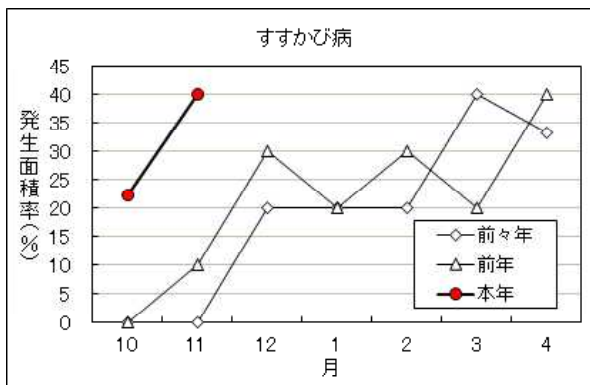


図1 すすかび病の発生面積率

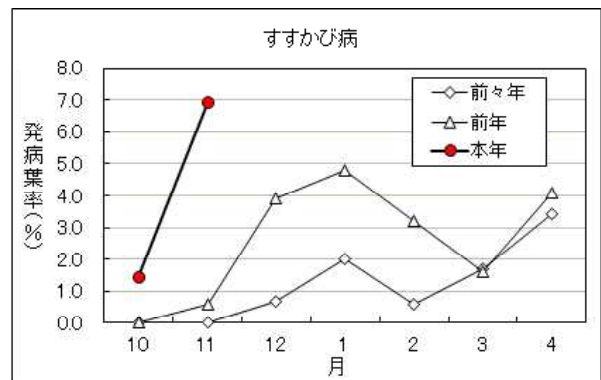


図2 すすかび病の発病葉率

2) 冬春ピーマン

11月中旬の巡回調査の結果は以下の通りであった。

(1) 黒枯病

発生面積率：9.1%（前年0.0%、平年10.6%）

発病葉率：2.5%（前年0.0%、平年0.6%）

平年並

平年より多

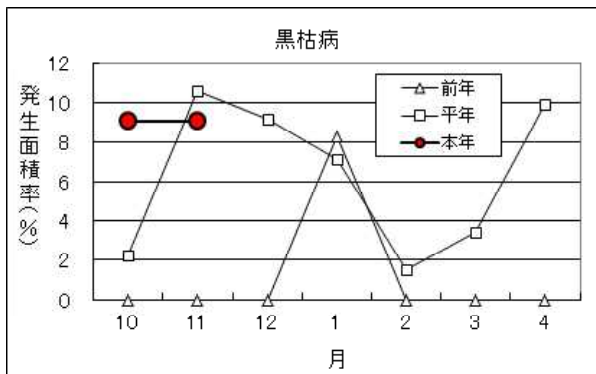


図3 黒枯病の発生面積率

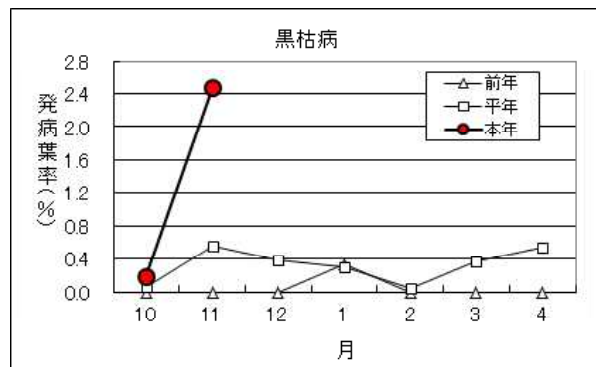


図4 黒枯病の発病葉率

(2) 斑点病

発生面積率：18.2%（前年0.0%、平年16.6%）

平年よりやや多

発病葉率：0.3%（前年0.0%、平年0.3%）

平年並

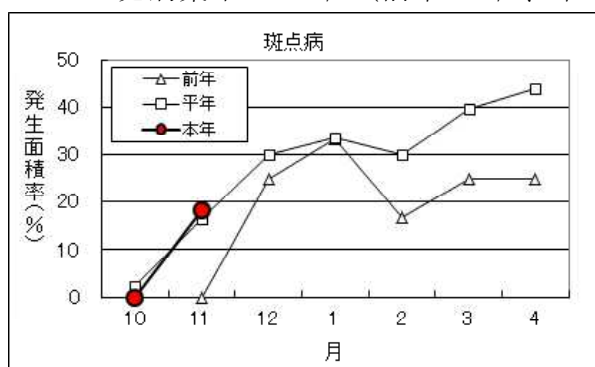


図5 斑点病の発生面積率

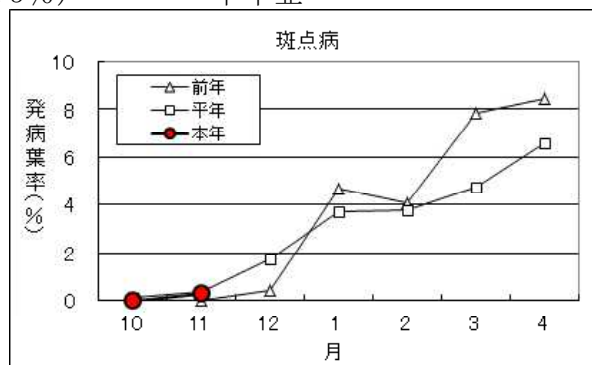


図6 斑点病の発病葉率

向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年より高く、降水量も平年より多い予報となっている。また、平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みであることから、施設病害の発生に好適な条件となる可能性がある（11月24日鹿児島気象台発表）。

4 防除上の注意

1) トマトすすかび病

- (1) 密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- (2) 発病葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。
- (3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- (4) 毎年、12月以降には、葉かび病、灰色かび病及び疫病の発生が増加傾向にあるので、日頃からほ場をよく観察し、施設内管理を徹底するとともに早期発見、防除に努める。

2) ピーマン黒枯病、斑点病

- (1) 施設内が高湿多湿にならないように、換気、水管理に注意するとともに、茎葉が過繁茂にならないよう管理を徹底する。
- (2) 発病葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。
- (3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおく。発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。
- (4) いずれの病害も厳寒期には一時的に病斑の進展が緩慢になるが（図3～6）、春先以降、発病が増加傾向にあるので、発生を見逃さないように注意し、定期的な予防散布を実施する。

5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 久野

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>